

3-7 関東地方の地殻変動

Crustal Movements in the Kanto District

国土地理院
Geographical Survey Institute

関東地方の各験潮場間の月平均潮位差及び精密変歪測量等の結果を報告する。

第1図は、油壺、布良、南伊豆に対する岡田験潮場の月平均潮位差である。'90年ごろから岡田が隆起していたが、最近止まっているように見える。

第2図は布良、勝浦、油壺の各験潮場の月平均潮位差の結果であるが、特に大きな変化はない。

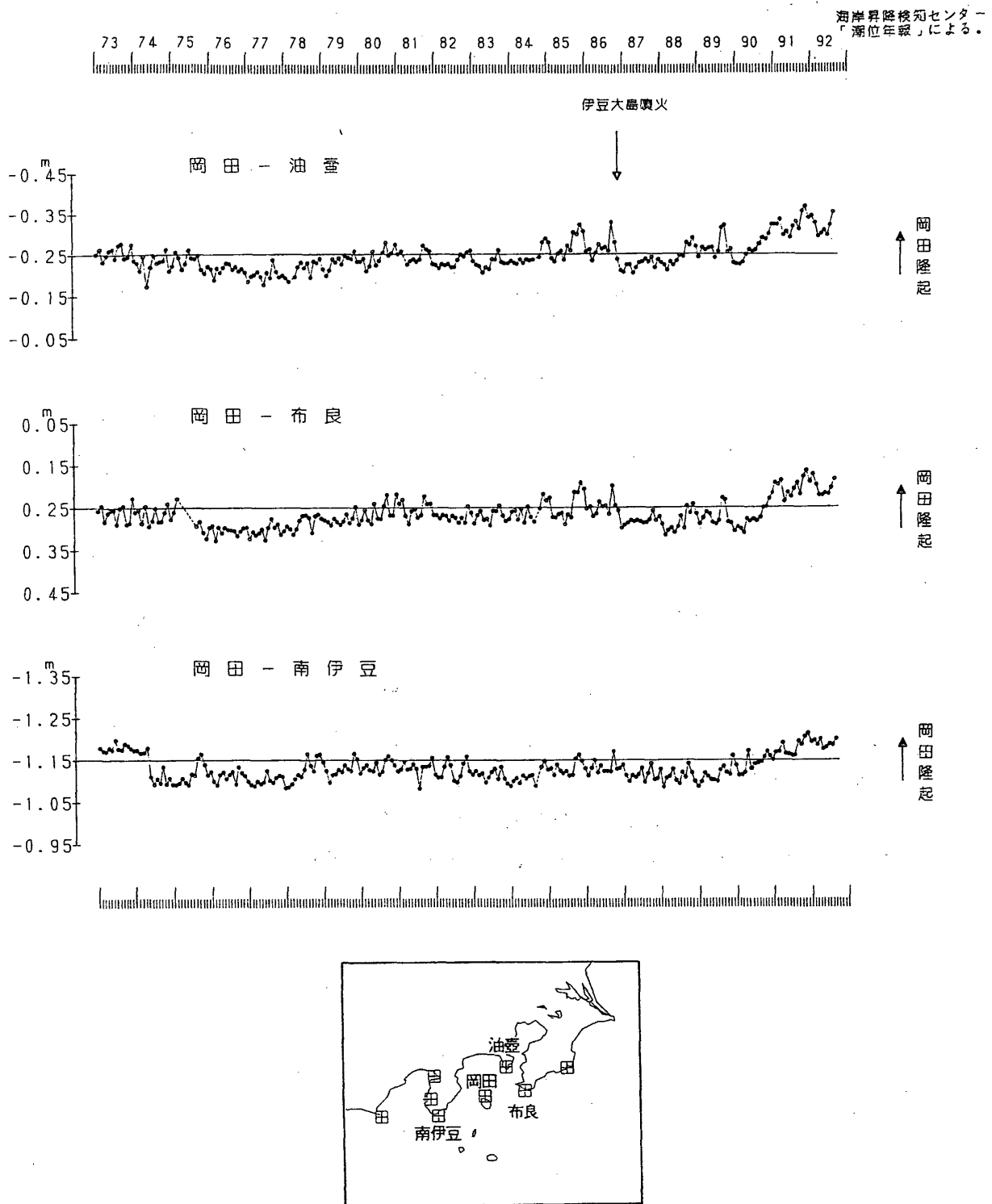
第3図は、日野地区の精密変歪測量結果である。北北西-南南東方向の圧縮歪がみられる。第4図は、鹿野山地方の光波測距儀(DI3000)による距離自動観測結果である。4月から連続観測を行っているが、特に大きな変化はない。

第5図は、館山地殻活動観測場における水晶管伸縮計による地殻伸縮の月平均値の結果である。NW-SE及びE-W成分は、年周変化を繰り返しながら縮みが継続している。

E-W成分は、1987年に故障して欠測しているが、センサーを交換したものである。

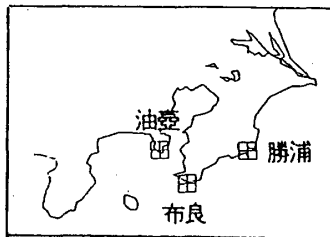
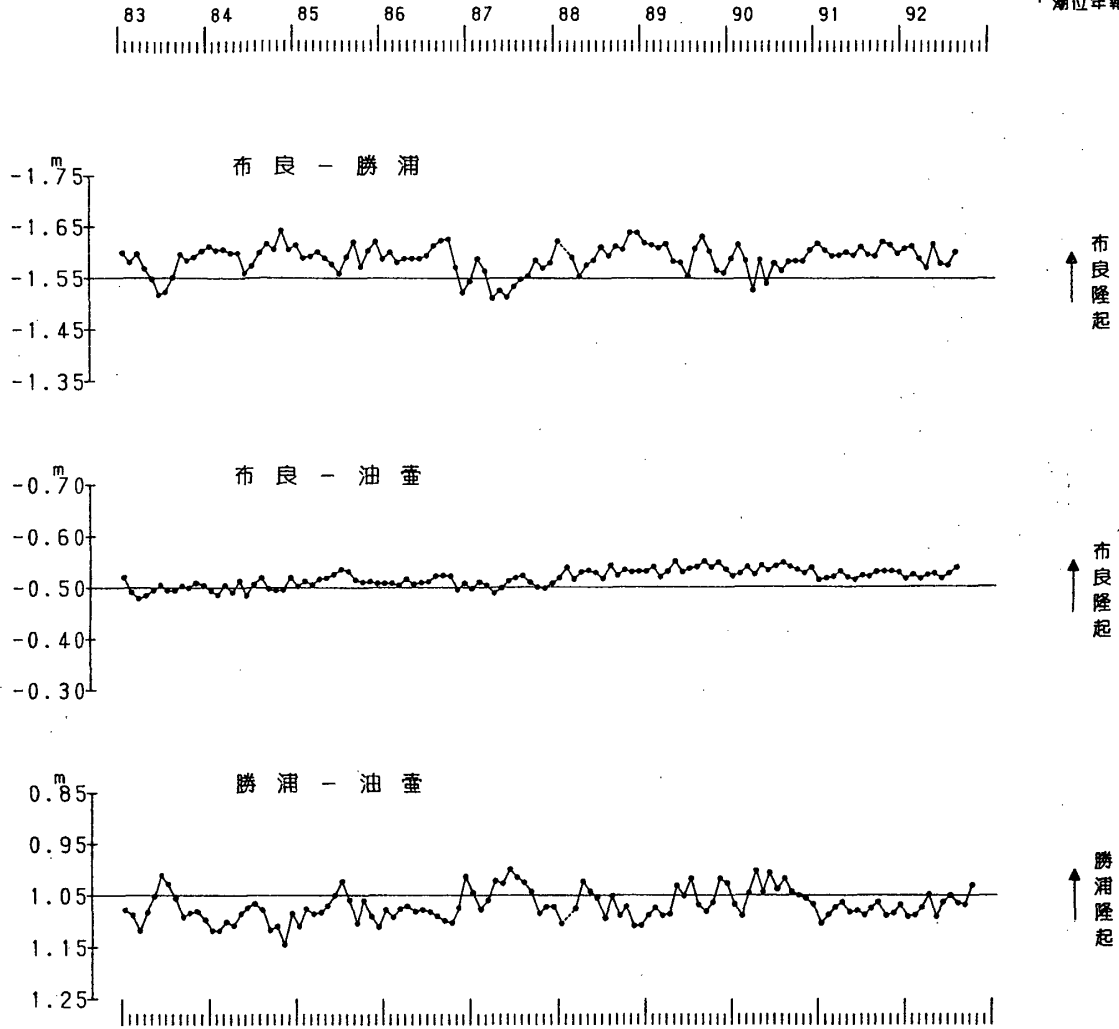
参 考 文 献

- 1) 国土地理院：関東地方の地殻変動，連絡会報，44（1990），89-116.
- 2) 国土地理院：関東地方の地殻変動，連絡会報，47（1992），121-143.
- 3) 国土地理院：関東地方の地殻変動，連絡会報，48（1992），125-161.
- 4) 国土地理院：伊豆大島の地殻変動，連絡会報，48（1992），258-261.



第1図 岡田・油壺・布良・南伊豆各験潮場間の月平均潮位差

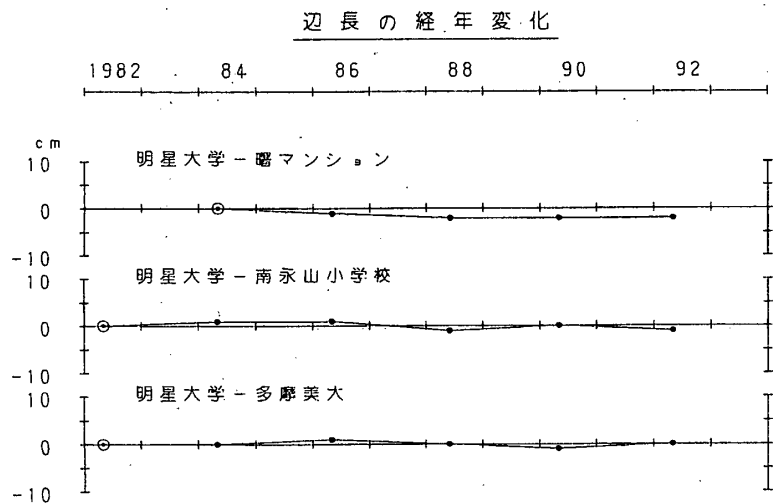
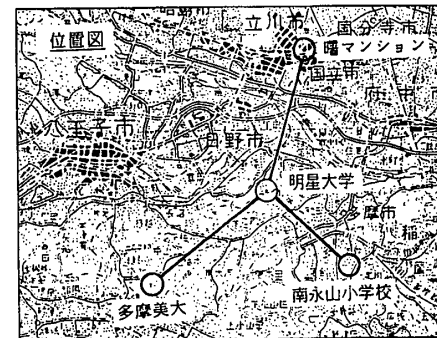
Fig. 1 Differences in monthly mean sea levels between the Okada, the Aburatsubo, the Mera and the Minami-Izu tide stations.



第2図 布良・勝浦・油壺各験潮場間の月平均潮位差

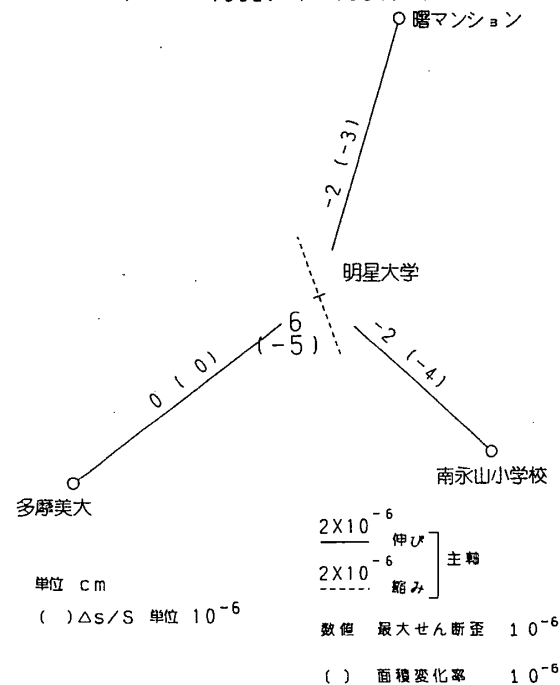
Fig. 2 Differences in monthly mean sea levels between the Mera, the Katsuura and the Aburatsubo tide stations.

区 間	測定年月	1982	84	86	88	90	92
		4	4	4	5	4	4
明星大学 ~ 曙マンション		6.120 ^m	^m .87	^m .86	^m .85	^m .85	^m .85
明星大学 ~ 南永山小学校		4.966.41	.42	.42	.40	.41	.40
明星大学 ~ 多摩美大		6.496.30	.30	.31	.30	.29	.30



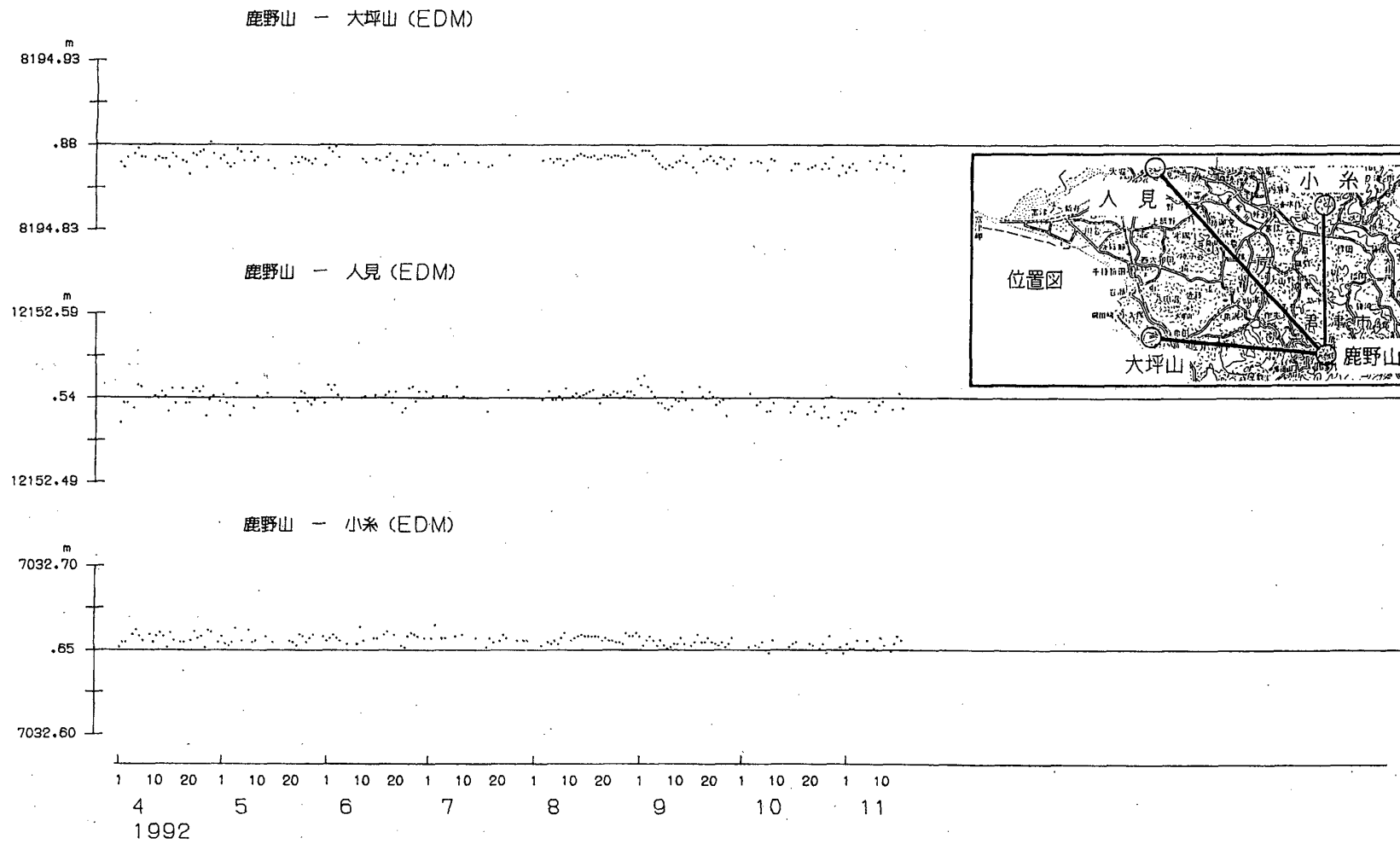
水平歪・辺長変化

1992. 4—1984. 4



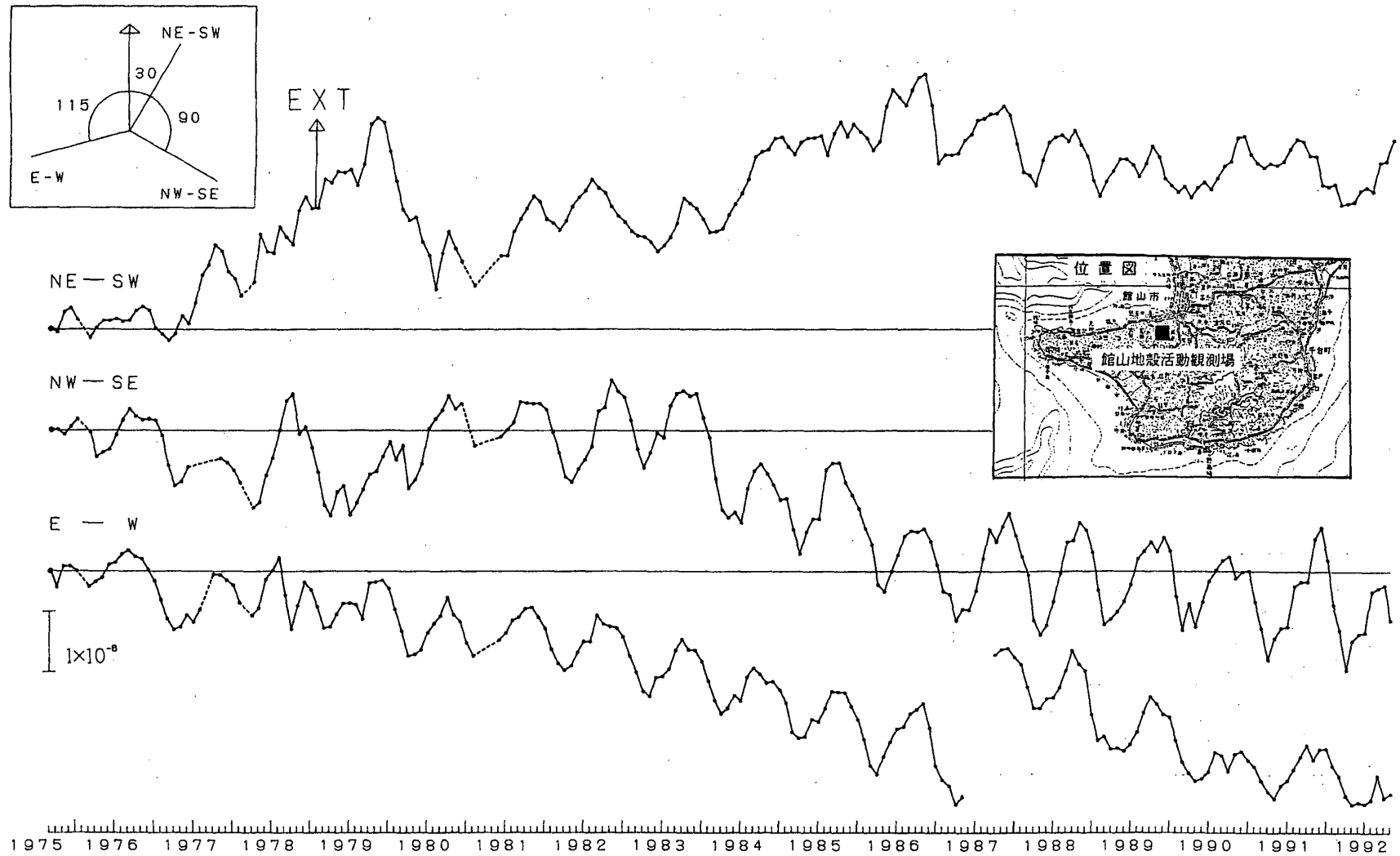
第3図 日野精密変歪測量結果

Fig. 3 Results of precise distance measurements of the Hino radial baselines.



第4図 鹿野山地方における距離自動観測結果

Fig. 4 Results of automatic observations of distances in the Kanozan District.



第5図 館山における地殻伸縮計観測（月平均値）

Fig. 5 Crustal strain observation at Tateyama crustal activity observatory (monthly mean values).